

平成29年度 西東京市立 明保中学校 学校自己評価表									
学校教育目標						評価は適切に行われている……………A 評価はあまり適切に行われていない……D 評価はほぼ適切に行われている……………B 評価は不適切である……………E 評価はどちらともいえない……………C			
	具体的方策	第 1 回				第 2 回			
		学校自己評価			学校関係者評価	学校自己評価			学校関係者評価
		努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策		努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策	
主体的に学び、活動する生徒	「目指す生徒像」を明確にしたPDCAサイクルによる生徒の育成を行う。	5	4	・取り組んだ教員は90%を超えているが、中には取り組みなかった教員もいる。また、7割弱程度の教員が「取り組んだ」と答えているが、「どちらかというに取り組んだ」という消極的な回答の教員も1／4いる。学年の指導のベクトルをそろえて目指す生徒像に近づくことは大切なことである。学年が共通理解をして学年運営に協力していく、その上で様々な方策を各担当が企画していく体制づくりが重要な課題であると考え。	A	5	4	・前期と比べて取り組んだ教員は100%となり、教員の意識が向上している。また、「目指す生徒像」についても87%の教員が肯定的な回答になっており、そのうち1／4の教員が「近づいてきている」と判断。学年毎に授業の様子だけでなく、行事での生徒の様子や行動においても確実に生徒の成長が見られる。これらの結果から教員が共通意識をもって学年の生徒の成長をより良い目指す姿にしていくことが重要であることが分かった。	A
	ユニバーサルデザインされた全ての生徒にわかりやすい授業を行う。	5	5	・教員は100%行っているが、「どちらかというに行った」が多く、課題である。 ・1学期末授業アンケート「先生の説明・話し方はわかりやすいですか」の中で「分かりやすい」「だいたい分かりやすい」と答えた生徒は、各教科の平均で96%となり全体的には問題はない。しかし、個別に見ると「だいたい……」という答えた生徒が多い教科もあり、課題である。	A	5	5	・前期と比べて「行った」という教員が増えた。しかし、「どちらかというに行った」という教員も前回同様に6割以上いる。課題としては教員が自信をもって全ての生徒に対して『わかる授業を行っている』という学校を目指すことである。生徒アンケートでは全体として95.8%が肯定的な回答をしている。今後多くの生徒にも「わかりやすい」授業となるように指導方の工夫改善していくことが重要である。	A
	学ぶ意欲の向上に向けた授業の確立を行う。	5	5	・教員の実施は100%でほぼ目標達成。 ・1学期末に行った授業アンケート「あなたは授業に積極的に取り組んでいますか」の中で「取り組んでる」「だいたい取り組んでいる」と答えた生徒は、各教科の平均で96.5%となった。全体的には問題はない。しかし、個別に見ると「だいたい……」という答えた生徒が多い教科もあり、課題である。	A	5	5	・教員の肯定的な意見は100%であるが、若干前期より低下が見られる。教員の指指導方法の研究をしなければならない。特に来年度からは学習指導要領の先取りも始まっていくことから、新しい教科の資質・能力の育成と主体的な学びに向けた取組を各教科指導において研究する必要がある。生徒アンケートは肯定的回答は96.3%で好結果であるが、教科によっては「だいたい……」「あまり取り組んでいない」と回答した生徒が半数以上もいる教科もあり課題である。	A
	土曜学習教室を、年間6回以上開催する。また、英検受験講座を2講座年間10回以上開設する。			・土曜学習教室は1、2年生のみの実施であるが、1学期2回、2学期2回、合計4回を既に実施した。参加者は1学期は2学期で15人～18人あった。3学期にも2回実施予定である。 ・英検講座は英検の受験者も増えており、講座を利用しながら受験する生徒は1学期16名、2学期19名。講座開催数は、1学期4回、2学期4回を予定通り実施した。3学期も4回実施予定である。		5		・土曜学習教室は年間6回実施。参加者は土曜実施のためか部活動など優先などで少なめである。講師の関係から土曜実施となっているが、平日実施が望ましいところである。 ・英検講座は11回実施で当初の目標は達成できた。特に英検の受験者は確実に多くなってきており、今後の入試制度等からも増加が予想されるため、今後も継続して本校の特色ある取組として継続していく。	A
思いやりある生徒	ふれあい月間で担任等による教育相談活動を行い、生徒の状況を見取り、生徒との絆をつくる。	5	5	・ふれあい月間1学期(6月)では担任が生徒全員と面談、生徒の悩みや様々な問題に早期に対応ができた。 ・実施後の生徒への満足度調「面談をして気持ちが悪くなりましたか(有意義な時間が過ごせましたか)。」では「満足」78%、「やや満足」20%で合計98%が有意義であったと回答している。2学期は11月に同様の教育相談活動を行う予定である。	A	5	5	・2学期ふれあい月間は11月に行われ、全の担任は生徒全員と面談した。生徒の満足度も前回同様で良い結果が出ている。細かな点としては、グラフには出ないが、1人、2人であるがやや不満と答えている生徒がいることである。マンネリ化しないよう担任が工夫し、生徒の状況をくみ取って取り組むことが充実と継続には必要である。	A
	特別な教科道徳全面実施に向けた授業を行う。また、道徳に関する講演会等を行う。2つの取組を年間で合計10回以上実施する。			・11月の道徳授業公開講座では新しい道徳の「考え、議論する道徳」に向けた授業に各学年で取り組んだ。また校内研修として都研修センター指導主事と東京女子体育大学教授を講師にした研修会で学ぶことができた。 ・保護者アンケート「お子様の様子をご覧になって、学校生活を通じて「思いやりの心」が育っていると思いますか」では肯定的な回答は90%であったが、「やや思う」と回答した保護者が多いのは課題としたい。	A	3	5	・7回の大きな取組ができたが、予定の10回には達しなかった。また、教員の研修としては研修会、道徳授業地区公開講座での指導案検討、全学級授業公開など数が少ない。また、道徳授業地区公開講座での保護者参観が少なく、せっかくの機会を生かし切れなかったところが残念である。道徳公開のみ午後だったために参加者が少なくなっても要因もある。来年度の公開は工夫が必要である。保護者アンケートは「思いやりの心が育っていると思いますか」では91%の保護者が肯定的な回答、前期よりやや良かった。	A
	ボランティアを推進すると共に地域ボランティアに積極的に参加させる。様々な取組で延べ200人以上の生徒の参加を目指す。			・ボランティアは今のところ地区育成会主催の小学校のおまつり、地域夏祭り、他地域イベントの参加者合計が延べ42人である。今後実施されるイベントやどんと焼そして12月の東小との地域清掃活動(本校1年生と東小3年から6年)との活動を予定している。 ・満足度はその後に調査予定である。	A	4	5	・177人と目標に届かなかったが、毎年コンスタントにボランティアに参加している現状は維持できた。しかし、参加者は音楽部やボランティア部などの固定メンバーに限られており、多くの生徒が参加しているとはいえない現状。また、生徒の満足度調査は個別の聞き取りによるものであるが、参加者は満足している。今後はボランティア参加の底辺拡大が課題である。	A